株式会社24時間通信

25年 8月号

〒003-0826　札幌市白石区菊水元町６条３丁目6-46
TEL 011-871-2455　FAX 011-871-2444

あなたもわずか30秒で情報通！活用法いろいろ コミュニケーションペーパー

蚊の生態と媒介防止策

■ミニ吸血鬼とは？

吸血鬼を知っていますね。太陽の光を嫌い、夜間に活動を始めて人間の血を吸うことで生命を保つ想像上の人間ですね。では、ミニ吸血鬼を知っていますか？　夜になると動き始める小さな人間の血を吸う生き物です。そうです「蚊」です。「蚊」はミニ吸血鬼という別名があるのです。このミニ吸血鬼はかゆみや病気を引き起こす厄介者でもあります。

■蚊の日の由来と目的？

８月20日は「蚊の日」と定められています。その由来は1897年（明治30年）８月20日、イギリスの細菌学者・医師ロナルド・ロスがハマダラ蚊の体内でマラリアの病原体である「マラリア原虫」を発見しました。そして翌1898年に鳥を使った実験により蚊がマラリアを媒介することを証明しました。それを記念してこの日は「蚊の日」と制定されました。その訳は、蚊は人類にとって史上もっとも多くの命を奪う生物とも言われ、毎年70～80万人が蚊の媒介感染症で命を落としています。この日を感染症と戦い、世界的な公衆衛生意識を高める日として、蚊が媒介するマラリアやデング熱などの疾患について考えるきっかけとしたのです。

■主な蚊の媒介病名

主な蚊と症状と活動内容		
病名	主な媒介蚊	特徴
日本脳炎	コガタアカイエカ	日本で長年にわたり存在する風土病。 多くは無症状だが、発症すると重篤化の恐れ（脳炎）。 ワクチンあり。定期予防接種対象。
デング熱	ヒトスジシマカ	2014年に東京都代々木公園などで国内感染が発生し話題に。 流行地（東南アジア等）からの帰国者がウイルスを持ち込み、 蚊を介して感染拡大のリスク。
ジカ熱	ヒトスジシマカ	日本国内での感染例は渡航歴のある帰国者がほとんど。 妊婦が感染すると胎児に影響の可能性があるため注意。 ヒトスジシマカが媒介可能であるため、夏季に注意が必要。

■過去の国内発症例の例

・日本脳炎

日本脳炎は、1966年に2,017人をピークに、その後ワクチン普及により患者数が急減しました。1992年以降は毎年10人以下で推移しています。

1999～2002年には25例報告され、最も早い発症は2001年7月12日(愛媛県)、遅い例は2002年11月1日(大阪)でした。

2006年にも8例の国内発症があり、熊本・広島・福岡・高知などで発生しています。

例外として、2016年に11人と、1992年以降最多を記録しています。

・デング熱

日本では1940年代に一度流行が起こりましたが、その後はほぼ輸入症例のみです。

しかし、2014年8月に東京・代々木公園を中心に国内流行が発生し、その後合計162名の国内感染が報告されました。

さらに、2020年に10代の学生(東京の修学旅行中)3名に国内感染が確認され、輸入例以外にも国内感染の可能性が再認識されました

・ジカ熱

国内での感染は確認されていません。2013年以降はすべて海外渡航による輸入症例として報告されており、国内で蚊を介して発症した例はありません。

■予防方法

・屋内の対策

網戸の使用・点検：小さな穴がないか確認し、破れていれば修理します。

蚊取り線香・電気式蚊取り器：夜間に使うと効果的です。

空気の流れを作る：蚊は風に弱く扇風機やサーキュレーターで風を起こすと効果的です。

蚊帳の使用：特に赤ちゃんや高齢者の就寝時に有効です。

・屋外の対策

水たまりをなくす：蚊は水たまり(バケツ、植木鉢の受け皿など)に卵を産みます。こまめに水を捨てます。

植木や茂みの管理：蚊の休息場所になりやすいので、雑草を刈る・植木を剪定します。

防虫スプレーの散布：ベランダや玄関まわりに虫除け成分を噴霧します。

株式会社24時間通信

〒003-0826　札幌市白石区菊水元町６条３丁目6-46
TEL 011-871-2455　FAX 011-871-2444

25年 8月号

あなたもわずか30秒で情報通！活用法いろいろ コミュニケーションペーパー

コミュニケーションペーパー 季節の話題編

トイレという言葉の意味とトイレの歴史

8月10日は「トイレの日」です。理由は、数字の「8」を便器、「10」をトイレに見立てた語呂合わせからきています。昔は、お手洗い、便所と言っていたのに、今は「トイレ」という言葉、いつ頃から使われるようになったのでしょうか？　排便、排尿する場所の言葉は「トイレ」「便所」「お手洗い」以外にどんな言い方があるでしょうか？　排便する場所、便器の形はどんな変遷があったのでしょうか？　徹底的に調べてみました。

■トイレという言葉の由来

トイレという言葉は、フランス語「toilette(トワレット)」から来ています。「toilette(トワレット)」は、もともと「布」「覆い布」「身なりを整えること」を意味しています。そこから転じて「服装を整える」「化粧をする」身だしなみを整える場所を「便所」から「トイレ」と言い換えるようになり、「トイレ」という言葉が定着しました。日本語ではこの「トイレ」以外にも「お手洗い」、「化粧室」、「ＷＣ(Water Closet)」も使われています。

■トイレ以外の言葉

・東司(とうす)

仏教寺院で使われた正式な呼称。僧侶が身を清めるための場所で、仏教的な意味で「穢れを清める場所」とされていました。

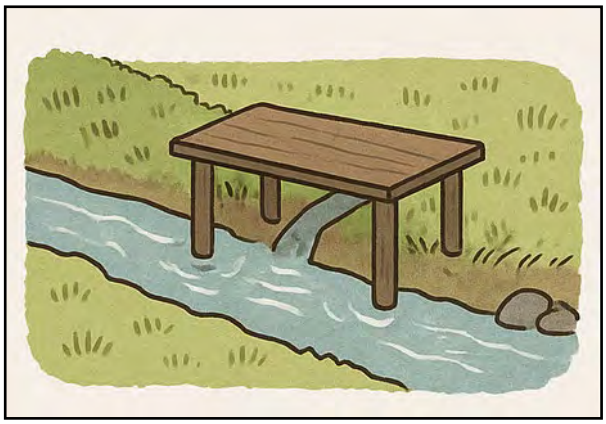
・雪隠(せっちん)

平安時代の貴族や武士の屋敷で使われた雅語。「雪」は白く清らかなもの、「隠」は隠すこと。すなわち、「見えないように身を隠す場所」。上品な言い方なので江戸時代以降は庶民にも広がりました。

・厠(かわや)

語源は「川屋」＝川のそばに設置した排泄場所。汚物を川に流す構造だったため、自然の一部として位置づけられました。江戸時代まで広く庶民に使われた言葉です。

■トイレの歴史



・縄文・弥生時代

排泄の記録は明確ではありませんが、自然の中で排泄していたと考えられます。

住居の外に排泄場所を設けていた痕跡があり、「川」や「海」に直接排泄する文化も一部であったとされます。

・古墳～奈良時代

仏教伝来とともに「清浄」が重要視されるようになり、寺院などで排泄の場（厠かわや）。東大寺などの寺院には「東司（とうす）」と呼ばれる僧侶用のトイレが設けられました。東司では水を流して清める機能もあり先進的な構造でした。

・平安時代＝貴族のトイレ

貴族の屋敷では、「雪隠（せっちん）」と呼ばれるトイレが存在。屋敷の一角に設置され、汲み取り式。使用後は紙や木片で拭いていました。

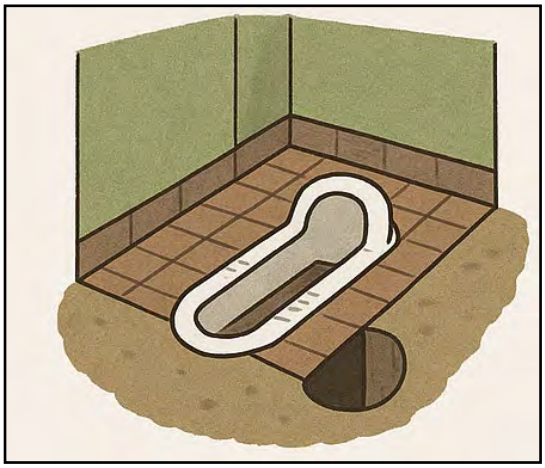
・江戸時代（江戸のトイレ文化の発達）

江戸では汲み取り式の便所が普及。特徴的なのは「糞尿（しょんべん・くそ）」が肥料として再利用されたことです。農家が「下肥（しもごえ）」として町から購入しました。この「循環型トイレシステム」は世界的にも珍しいことです。商家や長屋には共同トイレがあり、掃除当番制度がありました。公衆トイレも登場し、橋のたもとなどに町営の公衆便所が設けられようになりました。

・明治～昭和戦前（洋式文化の導入）

明治時代に入り、西洋文化が流入し、鉄道駅や官庁に洋式便器が導入され始めました。一般家庭では依然として汲み取り式が主流でした。便所は家の一番外側や裏手にありました。

・戦後～高度経済成長期（1950～70年代）



水洗トイレの普及…1950年代以降、都市部で徐々に水洗トイレが普及し、1960～70年代、高度経済成長と住宅改善政策により、急速に整備が進みました。合併処理浄化槽の導入により下水道のない地域では、浄化槽による処理が広がります。

・戦後～高度経済成長期（1950～70年代）

水洗トイレの普及…1950年代以降、都市部で徐々に水洗トイレが普及し、1960～70年代、高度経済成長と住宅改善政策により、急速に整備が進みました。合併処理浄化槽の導入により下水道のない地域では、浄化槽による処理が広がります。

・現代（1980年代～現在）

温水洗浄便座が登場します。1980年代にTOTO「ウォシュレット」が登場し、お尻を洗う機能・暖房便座・脱臭・乾燥など多機能化し、日本独自の「ハイテクトイレ文化」が形成されます。

近年では、渋谷の「透明トイレ」など、デザインと安心感を重視した進化系トイレも登場しています。